

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	りはなす多機能型事業所(児童発達支援)		
○保護者評価実施期間	令和8年 2月 1日		～ 令和8年 3月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数) 1
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 1日		～ 令和8年 3月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・発達段階に応じた丁寧な療育支援 児童一人ひとりの発達状況や特性に応じ、関わり方や活動内容を工夫した支援を行っている。	・児童の興味関心を活かした療育 好きな活動や反応を引き出す関わりを意識し、主体的な参加につなげている。	・療育の質の見える化 支援記録やモニタリングの充実により、児童の成長や変化が分かる支援を推進する。
2	・安心して過ごせる落ち着いた環境づくり 児童が安心して過ごせるよう、刺激の調整や関わり方に配慮した環境づくりを行っている。	・小さな変化を捉える支援 表情や反応などの微細な変化を共有し、支援に反映している。	・職員の専門性向上 療育・医療的ケアに関する研修の充実やOJTを通じて、職員の支援力向上を図る。
3	・重症心身障がい児への対応力 医療的ケアや身体的配慮が必要な児童に対して、安全面に配慮した支援体制を確保している。	・丁寧な関わり方の積み重ね 一人ひとりに合わせた声かけや関わりを継続し、安心感のある支援を行っている。	・関係機関連携の強化 学校・医療機関・相談支援専門員等との連携を強化し、切れ目のない支援体制を構築する。

	事業所の弱み(※) と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・支援の見える化が不十分 日々の関わりの中で得られた変化が、記録として十分に整理されていない。	日々の支援の中で得られる児童の変化が、記録として十分に整理・共有されていない。	記録様式の見直しやモニタリングの強化により、支援の効果が分かる記録の充実を図る。
2	・職員間の支援の統一性 関わり方に個人差があり、支援の方向性にばらつきが見られる。	職員ごとの経験や考え方の違いにより、関わり方にばらつきが生じている。	ケース会議や振り返りの機会を増やし、支援の方向性の統一を図る。
3	・専門的視点の強化が必要 療育の視点について、さらに専門性を高めていく必要がある。	療育に関する専門的知識や視点の共有が十分でない。	研修や事例検討を通じて、療育に関する専門性の向上を図る。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 りはなす多機能型事業所（児童発達支援）

公表日 2026年 3月 31日

利用児童数

1名

回収数

1名

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	1					
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	1					
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	1					
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	1					
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	1					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	1					
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	1					
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	1					
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	1					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	1					
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	1					
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	1					
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	1					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	1					
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	1					
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	1					
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	1					
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	1					

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	1					
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	1					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	1					
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	1					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	1					
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	1					
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	1					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	1					
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	1					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	1					
	29	事業所の支援に満足していますか。	1					

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		りはなす多機能型事業所（児童発達支援）				公表日		2026年 3月 31日	
環境・体制整備	1	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
		利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○			・ 医療的ケア児や配慮が必要な児童についても、十分なスペースを確保し安心して過ごせる環境を整えている。	・ 今後の利用児増加に備え、活動スペースの使い方や配置について継続的な見直しが必要である。		
環境・体制整備	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		・ 看護職員や専門職と連携し、医療的ケアや体調面にも配慮した支援を行っている。	・ 急な欠員時にも安定した支援が提供できるよう、体制強化が課題である。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・ バリアフリー化や安全面に配慮し、安心して過ごせる環境を整備している。	・ 活動内容に応じた空間の使い分けについて、継続的な見直しが必要である。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・ 日常的な清掃・消毒を行い、衛生的な環境を維持している。	・ 環境整備について、職員間での意識統一を図る必要がある。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・ 個別の部屋が確保できない場合（部署）はパーティションなどで仕切り個人のスペースを確保している ・ 個別の部屋がなくても、パーティションなどで仕切って利用できている	・ 利用状況に応じて、個別スペースの確保や活用方法の見直しが必要である。			
	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参加しているか。	○		・ 記録を活用し、課題の把握と改善につなげている。 ・ 職員間で意見交換を行い、業務改善に取り組んでいる。	・ 振り返りの内容をより具体化し、実践につなげる必要がある。 ・ 改善内容の共有や定着を図る仕組みづくりが必要である。			
業務改善	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・ 保護者からの意見や要望を把握する機会を設けている。 ・ 日常的なやり取りを通じて、ニーズの把握に努めている。	・ 意見収集の機会をさらに充実させる必要がある。 ・ 収集した意見の活用方法について、明確化が必要である。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・ 職員が意見を出しやすい環境づくりを行っている。 ・ ミーティング等で意見交換を行い、業務改善に反映している。	・ 意見の集約・反映の仕組みをさらに整備する必要がある。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		・ 外部からの意見や評価を参考にし、支援の見直しを行っている。	・ 外部評価の活用機会をさらに増やす必要がある。 ・ 評価結果を具体的な改善行動につなげる体制強化が必要である。			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・ 研修会などで工夫されていると思う ・ 研修が多く、学びの場が多いので大変いいと思う	・ 研修機会の確保とともに、参加しやすい体制づくりが必要である。 ・ 学んだ内容を現場に定着させる仕組みが必要である。			
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		・ 支援プログラムを作成し、HPIにて公表、保護者へ説明・共有している。	・ 定期的な見直しと改善を継続する必要がある。			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		・ 児童の状態や課題を把握し、適切なアセスメントを行っている。 ・ 保護者の意向を踏まえた個別支援計画を作成している。	・ アセスメントの精度向上と記録の充実が必要である。 ・ 支援計画への反映をより明確にする必要がある。			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		・ 職員間で情報共有・検討を行い、支援内容を決定している。 ・ 多職種連携により、多角的な視点で支援を行っている。	・ 検討内容の共有・記録の充実が必要である。 ・ 支援方針の統一をさらに図る必要がある。			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		・ 個別支援計画に基づいた支援を実施している。 ・ 支援内容の記録を行い、振り返りにつなげている。	・ 計画と実施内容の整合性をより高める必要がある。 ・ 評価・見直しの精度向上が必要である。			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		・ 標準化されたツールや日々の観察を通じて児童の状態把握を行っている。 ・ アセスメント結果を個別支援計画へ反映している。	・ アセスメント内容の精度向上と共有の強化が必要である。			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		・ 発達支援・家族支援等を踏まえた総合的な支援を実施している。 ・ 個々の状況に応じた具体的な支援内容を設定している。	・ 支援内容の統一と具体化のさらなる強化が必要である。			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・ 児童の発達段階に応じた活動プログラムを作成している。 ・ 個別・集団活動を組み合わせている。	・ 活動内容のさらなる多様化が必要である。			

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	・季節行事や感覚遊び等を取り入れ変化を持たせている。 ・児童の興味に応じて柔軟に活動を調整している。	・活動のバリエーション拡充が必要である。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○	・発達段階に応じた支援を実施している。	・支援の一貫性のさらなる向上が必要である。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	・事前に職員間で支援内容の確認を行い、役割分担を明確にしている。	・共有の徹底と記録の充実が必要である。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	・支援後に振り返りを行い改善につなげている。 ・職員間で情報共有を行っている。	・振り返り内容の具体化が必要である。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	・日々の記録を支援改善に活用している。 ・継続的な評価を行っている。	・記録の活用方法のさらなる強化が必要である。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	・定期的にモニタリングを実施している。 ・支援計画の見直しを行っている。	・評価精度の向上が必要である。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	・関係職員が会議に参加し情報共有を行っている。	・参加体制の安定化が必要である。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	・医療・教育・福祉機関と連携している。	・連携の強化と継続的な関係構築が必要である。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	・地域活動や外出支援を通じて社会参加を促している。	・地域との関係構築の強化が必要である。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	・学校や関係機関と情報共有を行っている。	・連携体制のさらなる強化が必要である。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。			
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。			
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○	・関係機関との情報共有や連携に努めている。	・地域全体での連携強化が必要である。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○	・外出レクリエーションを行えている	・外出支援の頻度の増加と体制整備が必要。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○	・日々の情報共有や相談対応を行っている。	・保護者支援のさらなる充実が必要である。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		・丁寧な説明と情報提供を行っている。	・情報発信方法の工夫が必要である。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○				
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○			
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○				
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○				
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○				
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○				
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○				
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○				
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○				
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○				
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○				
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○				
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○				
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○				
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			・様々な研修会を取り入れている。 ・再発防止や適切な支援に向けた取り組みを行っている。	・記録・検討体制の強化が必要である。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○					

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	りはなす多機能型事業所(放課後等デイサービス)		
○保護者評価実施期間	令和8年 2月 1日		～ 令和8年 3月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 6
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 1日		～ 令和8年 3月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・日中活動の充実と経験の提供 児童が様々な活動に参加できるよう工夫し、日中の時間を充実して過ごせる支援を行っている。	・活動のバリエーション確保 室内活動・感覚遊び・リラックス活動などを組み合わせ、児童の状態に応じた活動を提供している。	季節行事や感覚活動等を取り入れることで、児童がより多様な経験を得られるよう支援の充実を図る。
2	・個々の状態に応じた無理のない参加支援 体調や発達状況に応じて活動レベルを調整し、それぞれの児童が無理なく参加できる環境を整えている。	・成功体験を意識した支援 小さな「できた」を積み重ねることで、意欲や安心感につなげている。	児童一人ひとりの状態や反応を丁寧に把握し、個別支援計画や日々の記録を活用しながら、より適切な活動設定や関わり方の検討を行う。
3	・安心して過ごせる居場所づくり 安心して過ごせるよう、落ち着いた環境と関わりを提供している。	・家庭との情報共有 家庭の状況を踏まえ、無理のない支援内容を調整している。	環境設定や職員の関わり方の振り返りを定期的に行い、児童がより安心して過ごせる環境の維持・向上を図るとともに、職員間で統一した支援を行う。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・活動内容の固定化 日々の活動が似た内容になりやすく、さらなる工夫が必要である。	日々の運営の中で活動内容が固定化しやすく、バリエーションに限りがある。	活動内容の見直しや新たなプログラムの導入を行い、児童の興味関心に応じた活動の幅を広げる。
2	・援の目的の明確化不足 活動のねらいが職員間で十分に共有されていない場面がある。	活動ごとの目的やねらいが十分に整理・共有されていない。	活動ごとに支援目的を明確化し、記録やミーティングを通じて職員間で共有する。
3	・職員間の関わり方の差 児童への関わり方に個人差があり、支援の統一が課題である。	職員ごとの経験や考え方の違いにより、関わり方にばらつきがある。	ケース会議や振り返りを通じて関わり方の統一を図り、支援の質の向上につなげる。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 りはなす多機能型事業所（放課後等デイサービス）

公表日 令和8年3月31日

利用児童数

7

回収数

6

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	5			1	活動内容に応じてスペースが確保されており、安心して過ごせていると感じます。	今後も活動内容や利用児童の状態に応じて、安全かつ快適に過ごせる環境づくりに努めてまいります。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	5	1			医療的ケアや介助が必要な中でも、安心して預けられるよう丁寧に対応してもらっていると感じます。	今後も、お子さま一人ひとりの体調や支援内容に応じて、安心・安全に過ごせる支援体制づくりに努めてまいります。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	6					
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	4			2	子どもの小さな変化にも気づいてもらえており、個別に応じた関わりをいただけていると感じています。	今後も、日々の様子や体調の変化を丁寧に把握し、お子さまに合わせた支援が継続できるよう努めてまいります。
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	6					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	6					
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	5			1		
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	6				利用開始時に丁寧に説明していただき、不安なく利用を始めることができました。	今後も、制度や利用内容についてわかりやすく丁寧な説明を心がけ、安心してご利用いただけるよう努めてまいります。
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	6				支援の内容やねらいについて、わかりやすく説明してもらっていると感じます。	今後も、計画内容がより伝わりやすいよう、ご家族に寄り添った説明を心がけてまいります。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	5			1		
保 護 者 へ の 説 明 等	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	2	2	1	1	地域との交流機会が少ないように感じます。	感染症対策や安全面に配慮しながら、可能な範囲で地域との関わりを持てる機会づくりを検討してまいります。
	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	6					
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	5	1				
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	4			2		
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	6				子どもが落ち着いて過ごしており、通所を前向きに受け入れている様子があります。	今後も、お子さまが安心して楽しく過ごせるよう、一人ひとりに合った活動や関わりを大切にまいります。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	5		1		日々丁寧に関わっていただき、安心してお願いできています。	今後も、お子さまとご家族に安心してご利用いただけるよう、支援の質の向上に努めてまいります。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	5	1				
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	2		2	2	保護者同士の交流機会が少ないように感じます。	保護者のニーズを踏まえつつ、負担にならない形での交流機会の設定について検討してまいります。

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	4	1	1		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	4	1		1	
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	6				
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	6				
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	2	2	1	1	
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	5			1	
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	5	1			
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	5			1	
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	4	1		1	とても落ちついて通えているのだと感じます。今後もお子様もちろん、ご家族様からも安心して利用していただけるよう支援していきます。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	5			1	
	29	事業所の支援に満足していますか。	5	1			満足しています。これからもひとりひとりに寄り添った支援を行っていきます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	りはなす多機能型事業所（放課後等デイサービス）			公表日	令和8年 3月 31日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		重症心身障がい児が安全に過ごせるよう、バギー・車椅子・姿勢保持具の使用を前提とした動線を確保し、必要時には静養スペースも確保している。	医療的ケアや個別対応が重なる時間帯は空間の余裕が少なくなるため、活動内容や配置場所をより工夫していく必要がある。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		看護師・児童指導員・保育士等が連携し、吸引・経管栄養・移乗介助など個別性の高い支援に対応できる体制を整えている。	利用児の医療的ケアや介助量によっては、より手厚い配置が必要となる場面があるため、利用状況に応じた柔軟な人員配置の検討が必要である
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		活動・休憩・医療的ケアの場をできるだけ分け、視覚的にもわかりやすい環境づくりを行っている。障がい特性に応じて、安全面や移動のしやすさにも配慮している。	重症児は刺激への感じ方に個人差が大きいため、音・光・人の出入りなどの環境調整をより細やかに行う必要がある。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		衛生管理を徹底し、マット・ベッド・医療機器周辺の清掃や消毒を日常的に行っている。体位や姿勢にも配慮し、安心して過ごせる環境づくりを行っている。	季節や体調により温度・湿度・におい等への感受性が異なるため、より快適性に配慮した環境整備を継続する必要がある。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		体調不良時やクールダウン、個別活動、医療的ケア時に使用できる静かなスペースを確保し、個々の状態に応じて柔軟に対応している。	同時刻に複数名の個別対応が必要になる場合もあるため、スペース運用の工夫や優先順位の整理が必要である。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。		○	日々の支援やケース対応について職員間で共有し、必要に応じて支援方法の見直しを行っている。	日常業務に追われ、振り返りや改善を全職員で体系的に行う機会が十分ではないため、定期的な検討の場を明確に設ける必要がある。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		○	送迎時や面談等を通して保護者の思いや要望を丁寧に聞き取るよう努めている。	保護者評価の集約・分析・改善への反映をより明確にし、事業所全体の改善につながる仕組みづくりが必要である。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		日々の申し送りや会議等で、現場職員が気づいたことを共有しやすい雰囲気づくりを心がけている。	意見を出すだけでなく、改善策の実施・評価までつなげる流れをより明確にしていく必要がある。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		外部の視点も参考にしながら、支援や運営の質向上を意識している。	今後、より客観的な視点を取り入れるため、外部評価や第三者からの助言を受ける機会を積極的に検討していく必要がある。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		重症心身障がい児支援や医療的ケア、安全管理等に関する研修受講を促し、法人内での共有もしている。	勤務体制上、全員が同じ研修機会を持ちにくいいため、資料共有やミニ研修等の工夫をさらに進める必要がある。
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		こどもの発達段階や障がい特性、体調面を踏まえた支援内容を意識してプログラムを作成している。	保護者や関係機関にもよりわかりやすく伝わるよう、公表方法や内容の整理を進める必要がある。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		保護者からの聞き取り、日々の観察、医療的ケアの状況、姿勢や感覚面の特徴等を踏まえ、個別性を重視した計画作成を行っている。	重症児は小さな変化が支援に大きく影響するため、アセスメントの視点をより多職種で共有・更新していく必要がある。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		看護・療育・介助の各視点から情報を出し合い、こどもの最善の利益を意識した支援検討を行っている。	勤務時間の違いにより全員参加が難しいこともあるため、共有方法の工夫が必要である。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		計画内容を職員間で共有し、日々の支援の中で目標を意識した関わりができるよう努めている。	計画の内容をより具体的な日々の支援行動に落とし込む工夫を継続していく必要がある。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		日々の表情・反応・姿勢・睡眠・食事・排泄・活動時の様子などを丁寧に観察し、支援に反映している。	重症児に適した評価ツールの活用や記録の統一化について、さらに検討を進める必要がある。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。		○	本人支援だけでなく、保護者の思いや在宅生活の状況も踏まえた支援を意識している。	家族支援・移行支援・地域連携の視点を、計画書へより具体的に落とし込んでいく必要がある。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。		○	活動内容について職員間で意見を出し合い、こどもの体調や参加しやすさを考慮しながら検討している。	事前の十分な打合せ時間を確保し、より計画的に立案できる体制づくりが必要である。

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	季節行事や感覚遊び、制作、音楽、ふれあい活動などを取り入れ、経験の幅が広がるよう工夫している。	安全面や体調管理を優先する中で活動が似通いやすいため、新しい活動の引き出しを増やしていく必要がある。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○	個々の体調や覚醒状況に応じて、無理のない範囲で個別・小集団活動を組み合わせている。	集団参加が難しい児への関わり方や、参加の形を広げる工夫をさらに行う必要がある。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	利用児の体調、医療的ケア、送迎、活動内容、役割分担等を確認し、安全な支援につなげている。	送迎や受け入れ準備と重なる時間帯は情報共有が簡略化しやすいため、確認漏れ防止の工夫が必要である。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	その日の様子や体調変化、保護者への申し送り事項などを共有している。	送迎や片付け後で時間確保が難しい日もあるため、短時間で振り返りを実施を行う体制づくりが必要である。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	医療的ケア、バイタル、活動参加状況、体調変化等を記録し、支援の継続性に活かしている。	記録の内容や視点にばらつきが出ないよう、記録の質の統一を図る必要がある。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	成長や体調、生活状況の変化を踏まえ、定期的な見直しを行っている。	重症児は短期間で状態変化があるため、定期時期だけでなく随時見直しをより意識していく必要がある。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○	日常生活支援、創作活動、地域交流、余暇活動等を意識しながら、無理のない範囲で取り入れている。	重症児の特性上、活動が限定されやすいため、活動の意図を明確にしながら幅を広げていく必要がある。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○	表情・視線・身体反応など非言語的な意思表示を丁寧に受け取り、選択の機会をつくるよう努めている。	意思表出の捉え方に個人差や職員差が出やすいため、本人のサインをチームでより共有していく必要がある。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	日常的に関わりの深い職員が参加し、生活・医療・発達面を踏まえた情報共有を行っている。	参加職員が固定化しないよう、複数職員で情報を把握できる体制づくりが必要である。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	学校や医療機関、相談支援専門員等と必要時に連携し、生活全体を見据えた支援を行っている。	連携が必要時対応に留まらないよう、平時からの関係づくりをさらに進める必要がある。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○	送迎時や連絡帳、必要時の電話等を通して、学校との情報共有に努めている。	その日の体調や医療的ケア内容など、より細かな共有が必要なケースについては連携方法をさらに工夫する必要がある。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○	継続した支援が行えるよう、必要に応じて過去の支援履歴や生活状況の把握に努めている。	移行時の情報が十分でない場合もあるため、より丁寧な引継ぎ体制を整えていく必要がある。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○	卒業後も本人が安心して過ごせるよう、必要に応じてこれまでの支援経過や配慮事項を共有している。	将来を見据えた移行支援の視点を、早い段階から意識して関係機関と連携していく必要がある。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○	必要時には助言を求め、専門的な視点を支援に活かせるよう努めている。	より継続的・計画的な連携の機会づくりが必要である。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○	地域とのつながりを意識し、社会参加の機会づくりを大切にしている。	重症児は体調面・移動面・感染症の配慮が必要で、交流機会が限られやすいため、無理のない形で交流の機会を検討していく必要がある。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○	地域の支援体制や課題を把握し、必要な連携につなげられるよう努めている。	日常業務との兼ね合いもあり参加が限定的になりやすいため、継続的な参加体制の確保が必要である。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○	送迎時や連絡帳等を通して、その日の体調や活動の様子、気づきを丁寧に共有している。	短時間のやり取りだけでは伝えきれないこともあるため、必要時には面談等の機会をさらに活用していく必要がある。
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	日々の関わりの中で、家庭での関わり方や生活上の工夫について助言・情報共有を行っている。	家族支援プログラムとして体系的に実施する機会は十分ではないため、今後の充実が課題である。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	契約時や必要時に、保護者へわかりやすく丁寧に説明するよう努めている。	制度変更や内容の更新時には、よりわかりやすい再説明や文書整理が必要である。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○	保護者の希望や家庭での思いを丁寧に聞き取り、本人の反応も踏まえて支援計画に反映するよう努めている。	本人の意思表出が読み取りにくい場合もあるため、本人理解をより深める工夫が必要である。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○	計画内容を保護者に説明し、理解と同意を得た上で支援を開始している。	専門用語を避け、より具体的にわかりやすい説明となるよう工夫を継続する必要がある。

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		送迎時や面談等で保護者の悩みや不安を受け止め、必要に応じて助言や関係機関との連携を行っている。	保護者が相談しやすい機会をさらに確保し、継続的な家族支援につなげていく必要がある。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		○	保護者同士がつながれるよう、必要に応じて情報交換の機会づくりを意識している。	保護者会や交流機会の実施は十分とは言えず、保護者・きょうだい支援の視点から今後検討が必要である。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情や要望には丁寧に耳を傾け、早期対応を心がけている。	小さな不満や気づきの段階から把握できるよう、さらに相談しやすい体制づくりが必要である。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		活動の様子や行事予定等を、保護者にわかりやすく伝えられるよう努めている。	発信内容や頻度にはばつきが出ないよう、継続的な情報発信の体制を整える必要がある。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報の管理や書類の保管、写真・SNS等の取り扱いに配慮している。	情報共有の機会が多い事業所特性上、職員全体で継続して意識を高めていく必要がある。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		表情・視線・反応等を丁寧に読み取り、保護者にもわかりやすい言葉で説明するよう努めている。	本人に合ったコミュニケーション手段の整理や共有をさらに進める必要がある。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		地域とのつながりを意識しながら、事業所理解につながる関わりを大切にしている。	重症児支援の特性上、感染対策や安全面への配慮が必要のため、無理のない形で地域との関係づくりを検討する必要がある。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		事故・緊急時・感染症・防犯等のマニュアルを整備し、想定に応じた対応確認や訓練を行っている。	重症児特有の医療的ケアや避難時対応をより具体的に想定した実践的訓練を継続していく必要がある。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		災害時にも安全確保と支援継続ができるよう、計画や訓練を行っている。	停電時の医療機器対応や搬送方法等、重症児支援に即した具体的な備えをさらに強化する必要がある。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		服薬、発作歴、体調面、既往歴等を把握し、安全な支援につなげている。	情報の更新漏れがないよう、保護者・医療機関との継続的な確認体制が必要である。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		アレルギーや食形態に配慮し、誤提供防止に努めている。	経口摂取だけでなく経管栄養も含め、誤提供防止の確認体制を継続して徹底する必要がある。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		日常の事故予防や移乗・姿勢保持・医療的ケア時の安全確保を意識しながら支援している。	実際のヒヤリハット事例を安全計画により反映し、継続的な見直しにつなげていく必要がある。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		○	送迎時や契約時等に、安全面や緊急時対応について保護者へ説明している。	安全計画の内容を保護者へより具体的かつ継続的に周知する機会を増やしていく必要がある。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		小さな気づきも共有し、事故防止につなげるよう意識している。	記録・共有・再発防止策の定着をより徹底し、職員全体の安全意識向上につなげる必要がある。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止や権利擁護に関する研修・周知を行い、日々の支援を振り返る機会を設けている。	身体介助や医療的ケアが多い重症児支援では、不適切支援に気づきにくい場面もあるため、継続的な意識づけが必要である。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		安全確保の観点から必要性を慎重に検討し、保護者へ説明の上で適切に対応するよう努めている。	重症児支援では姿勢保持や安全確保との線引きが難しい場面もあるため、身体拘束の適否を組織的に継続して確認していく必要がある。	